

### 【プロジェクト名】

多摩川で大量に増え続ける野良猫の実態と動物管理政策  
～動物福祉先進国・ドイツから学ぶ～

### 【研究目的】

- ①ドイツの優れた動物管理政策を調査し、アウトプットを出すことで欧州の動物管理政策の現状を学習し、持ち帰り、伝え、日本の動物愛護の問題点を見つけること。
- ②海外の動物管理政策や写真家である小西修さんの活動から、動物の命、倫理観、ペットを飼う責任を再検討すること

### 【結論】

ドイツの動物保護シェルター「ティアハイム」への取材を通して、①ティアハイムが動物自身の新しい人生を再スタートさせるための施設であること、②ティアハイムは常に人手・財源不足に悩まされていること、③ティアハイムには殺処分を行わないという信念があり、その実現のために運営されていること、④日本とドイツ両国とも「動物＝モノ」という考え方が定着しているという課題を抱えていることが分かった。

さらに、この研究のきっかけともいえる多摩川の河川敷で野良猫を保護する写真家の小西修さんとその関係者にも取材した。国内取材とドイツ取材を総合すると、日本社会の動物愛護の問題点は日本とドイツが「飼い主への責任能力の向上」という共通の課題を抱えながらも、日本では「臭いものに蓋をしてしまう」ように殺処分や動物遺棄の事実を容認し解決方法の模索から目を背けている点にあると考えた。そのため、この問題を解決するためには「見て見ぬふりをせず、小さな命と向き合う」小西さんやティアハイム職員の活動を広く伝え、日本社会の動物に対する考え方を変えることが必要だと強く感じた。

### 【活動内容】

国内取材では、多摩川河川敷で活動する小西修さんと河川敷野良猫の世話をするホームレスへの取材、小西さんの写真展の来場者への取材を行った。さらに夏季休暇を利用して、動物保護シェルター「ティアハイム」があるドイツへ行き、それぞれ運営状況の異なるベルリン、ブランデンブルク、ポツダムといった3カ所のティアハイムに取材・視察を行った。また、その成果を学部内の「学生研究発表会」にて学部の教授の方々や同世代の学生に向けて発表した。

### 【主な取材対象者】

- ティアハイム・ポツダム所長 ギュンター・ヘインさん
- ティアハイム・ブランデンブルク職員 アンニャ・リンクッスさん
- フリーカメラマン 小西修さん
- 小西修さんが交流している多摩川河川敷で生活するホームレスの方々
- 小西さんの写真展の来場者